令和４年度全国学力・学習状況調査の公表に係る教育長コメント

令和４年７月 28 日

本年４月 19 日に実施しました「令和４年度全国学力・学習状況調査」の結果が、本日公表となりました。今回の調査は、悉皆調査としては 12 回目、抽出調査を併せると 14 回目となり、４年ぶりに理科の調査も行われました。

まず、校種別に結果をみてみますと、小学校では、国語の全国平均との差が＋0.7 ポイント、算数＋2.5 ポイント、理科－0.3 ポイントとなっています。特に算数においては、昨年度の全国比より 1.9 ポイント上昇するなど、引き続き、全国上位に位置しております。

これまで少しずつ全国平均に近づいていた中学校ですが、本年度は国語の全国平均との差は－1.9 ポイント、数学－5.0 ポイント、理科－2.8 ポイントとなっております。それぞれの教科で全国平均との差が広がる結果となっております。

小学校においては、若年教員と経験豊富な教員がチームで学び合う「メンター制」などを活用して、授業改善に取り組んできた結果が徐々に現れてきているものと思います。中学校においても、「教科のタテ持ち」を推進するなど、組織的な取組を進めてきたところですが、学校全体で目標を共有し、取り組む体制や教科の改善プランについての「チェック（C)」「アクション（A)」の部分に弱さがあったことがうかがわれます。

教科ごとの状況をみますと、国語では、小学校・中学校ともに全国との比較において、「根拠を明確にして意見を書く、説明する」ことに成果がみられています。日々の授業でしっかりと「書く」ことが意識され、指導が行われているものと思います。しかし、文学的な文章を読み、登場人物の心情の変化などを、描写をもとに捉えることには、まだまだ弱さがみられています。

算数・数学については、例えば、立式の意味を記述することに伸びがみられています。単に式を立てて答えを見付けるのではなく、答えの求め方を説明することに力を入れてきたことによるものと思います。

一方、中学校の数学については、基礎的な知識・技能の定着に大きな課題がみられています。一つ一つの内容の意味理解が十分に図られていなかったり、定着させるための時間や取組が不十分であったりしたことが要因と考えられます。

理科については、理科の調査が始まった平成24年度からの経年でみますと、改善傾向にあります。このことは各学校において、観察・実験の計画を立てる活動を重視した問題解決の授業づくりが進みつつあるものと考えております。しかし、その計画や方法が適切かどうか検討することにはまだ弱さがみられています。

質問紙の結果をみてみますと、家庭学習については、平日も休日も「全く勉強しない」と答える児童生徒が増加するなど、全体的に学習時間が少なくなってきていることがうかがえます。

また、ICT機器を、毎日の授業で活用している小学校・中学校は全国と比較して少ない状況で、特に、タブレットを家庭に持ち帰って学習する割合は、全国と大きく開いており、これらの要因を十分に検討していく必要があります。

県教育委員会としましては、今回の調査結果を重く受け止め、より詳細に分析を行い、これまでの取組を検証したうえで具体的な改善策や効果的な方策を市町村教育委員会と一緒になって講じていきたいと考えています。さらに、現在、進めているデジタル技術を活用した、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを着実に推進することで、高知県の児童生徒の学力の定着と向上に努めてまいります。

高知県教育長　長岡　幹泰